



〒890-0065鹿児島市郡元1-21-30共通教育棟1号館2F修学支援室(障害学生支援センター)

TEL&FAX:099-285-3287

E-mail:learning-support@km.kagoshima-u.ac.jp

URL: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/>

令和6年度の障害学生支援センター(修学支援室)の歩み 障害学生支援センター長 前田雅人

障害学生支援センター(修学支援室)は、平成26年4月に設置され11年経過しました。遅ればせながら、やっと10周年記念誌が発刊できそうです。これまで当センターの活動を支えてくださったスタッフの皆様には深く御礼申し上げます。さて昨年は当センターにおいて大きな出来事がありました。それは当センターの設置当時から勤務していただいていた今村智佳子先生(現在は臨床心理学研究科准教授)が8月末に転出され、新たに中尾誠一先生に着任いただいたことです。今村先生には相当に業務を頑張っていただいたので、その後の活動を心配しておりましたが、幸いなことに中尾先生、川添茜先生およびセンターのスタッフの方々の協力もあり、障害学生支援が滞ることなく活動できている現状に感謝しかありません。また令和5年度から勤務いただいている川添先生には障害学生の就職に関する問題解決のため、様々に企画を練ってもらい、昨年10月に学外の企業、高等教育機関、福祉機関、公共機関等を招き、鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2024「鹿児島の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会」を開催することができました。この会では、東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム(PHED)の近藤武夫先生にご講演いただき、また京都大学高等教育アクセシビリティプラットフォーム(HEAP)、鹿児島障害者職業センターからもご参加いただき、意見交換を行いました。さらに障害者の支援機器の展示を行い、本学理工学研究科の西村方孝先生には視覚障害者に対する開発機器を説明いただいております。まだまだ障害学生への理解や認識にはバラツキがみられるなどの課題が感じられましたが、今後も障害学生の修学支援はもとより社会への就労移行がスムーズに進むよう、支援体制を構築していきたいと考えております。今年も9月22日にシンポジウムを開催予定ですので、ぜひご参加、ご検討ください。

さて令和6年3月に障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第三次まとめ)が出されましたが、令和4年5月1日時点の全国の大学、短期大学、高等専門学校における障害学生数は27121人、在籍率は1.53%、支援障害学生在籍率0.84%でした。当センターにおける支援障害学生数は137名(令和6年度)であり、本学の1万人を超える学生数からみると支援学生の割合はほぼ全国と同程度であると思われます。その報告の中では、「障害の社会モデル」という言葉が使われています。障害者が日常生活または社会生活で受ける様々な制限は、心身の機能の障害のみに起因するものではなく、社会における様々な障壁(バリア)と相対することによって生じるという考え方です。具体的には、物理的なバリア、制度的なバリア、文化・情報面でのバリア、意識上のバリアなどがあります。この「障害の社会モデル」の考え方に基くと、障害のない学生を前提として構築された大学の仕組みや構造が、障害のある学生にとって社会的障壁となっている場合があるということです。大学の構成員全てが「障害の社会モデル」を理解し、事前的改善措置や合理的配慮の提供により社会的障壁を除去するとともに、各種学生支援リソースを活用しながら、よりよい修学支援を展開していければと考えております。

最後に、私は来年3月で退官となります。センター長として、学内における障害学生への支援についてだいぶ理解が得られてきたと実感しております。ただ当センターだけでは十分な支援に至らないこともあり、学生生活課、保健管理センターおよび担当部局の方々と連携させていただいております。ご協力に大変感謝いたしております。学生の修学環境を整えるためには、教職員の皆様のご助力が必要ですので、今後ともどうかよろしく願いいたします。

開催報告

鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2024

「鹿児島の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会」

10月22日(火)障害学生支援センターとキャリア形成支援センターが主催、東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム(PHED)と京都大学高等教育アクセシビリティプラットフォーム(HEAP)の共催で行われました。鹿児島県内の企業、高等教育機関、地域の福祉機関、公的機関等85名の方々が参加されました。第1部では、東京大学近藤武夫教授、松清あゆみ特任助教、京都大学辻井美帆先生によるATライブラリーが行われました。また、本学理工学研究科情報・生体プログラムの西村方孝准教授による視覚障害者への超音波音声情報提供について実演も行われました。第2部の話題提供①では近藤教授より東京大学PHEDにおける障害学生など様々な学生が社会で活躍するために、実践的インターンシップやジョブ型雇用の実践の報告やご提案がなされました。話題提供②では本学障害学生支援センター川添茜先生から鹿児島大学での障害学生支援の取り組みについて、話題提供③では鹿児島障害者職業センター瓜生彰氏より障害者職業センターでの取り組みについて発表されました。その後のグループセッションでは、鹿児島の障害学生支援と就労移行に関する課題点や改善点について積極的な話し合いがなされました。今回の情報交換会を通して、地域のネットワーク形成の重要性が認識されました。誰もが自分らしく活躍できる社会を目指し、地域機関と連携した取り組みが期待されます。

日時：令和6年10月22日〔火〕13：00～17：00 会場：鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール

第1部：ATライブラリー(支援機器の展示・実演)

第2部：障害学生支援と就労移行に関する情報交換会

話題提供①東京大学PHEDでの取り組み 近藤 武夫氏(東京大学先端科学技術センター教授、東京大学障害と高等教育に関するプラットフォーム代表)

話題提供②鹿児島大学での障害学生支援の取り組み 川添 茜氏(鹿児島大学障害学生支援センター特任専門員)

話題提供③鹿児島障害者職業センターでの取り組み 瓜生 彰氏(鹿児島障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー)



感想（抜粋）

- ・異業種が集まり意見交換する貴重な機会になっている。この会をきっかけに繋がりを深めて、生きづらさを抱えている方の支援に繋げていきたいと感じた。
- ・支援機器を見て、姿勢が崩れる発達障害者の方へのアプローチに生かされると聞いて驚きだった。わかっていたようでわかっていなかったこと、知らなくてはいけないと思いつつ知れずにいたことを見聞きすることができた、とても貴重な時と場だった。
- ・企業の抱える悩み、行政が行っている支援、多方面から話を伺うことができた。
- ・講師や話題提供の方々のお話、グループセッションのシェアリングを通して、支援の視点とインクルーシブの視点や考えがそれぞれに成熟していく必要があると強く感じた。



開催報告

鹿児島大学Diversityセミナー 多様な学生への配慮・支援について ～障害学生支援センター（修学支援室）の10年の歩み～

11月19日(火)障害学生支援センターと学生生活課が主催で行われました。障害学生支援センター特任助教として10年間にわたり学生支援に尽力いただいた今村智佳子先生（法文学部臨床心理学研究科准教授）により「多様な学生への配慮・支援について～障害学生支援センター（修学支援室）の10年の歩み～」と題して講演を行っていただきました。講演では、障害学生支援センターの設立背景と意義、障害学生支援体制の整備、障害学生支援の拡充（領域・支援内容）、鹿児島大学における障害学生支援の今後の展望についての話がありました。講演を通じて、障害学生支援センターの役割や、学生、教職員、地域社会との協力の重要性が再確認されました。これからも「誰もが自分らしく学べる社会」を実現するために、引き続き努力していくことの重要性が強調されました。

感想（抜粋）

- ・とても興味深く拝聴させていただきました。個々人の状況に100%合わせた配慮は困難だと思いますが、先生を始めとしたセンター皆さんの努力が数字に表れており、確実に実を結んでいるのは素晴らしいと感じました。一教職員として、考えさせられる契機となりました。ありがとうございました。
- ・大学職員ですが、普段あまり関わらない分野で、興味はありましたが、どんな支援をしているか等、ホームページ上でしかわかっていませんでした。障がいの有無に関わらず、その人が自分らしく生きていけるための教育としての支援をして行っていると感じました。
- ・障害学生支援は福祉サービスではなく、教育の一環、という言葉がとても印象的でした。障害のある学生、ない学生、教職員それぞれがお互いに学びながら多様性を理解していけることはとても理想的と感じました。



開催報告

令和6年度働くことに不安がある学生向けの講座

2月17日(月)障害学生支援センターとキャリア形成支援センター主催で行われました。鹿児島公共職業安定所新卒応援ハローワーク就職支援ナビゲーターの松元陽子氏、独立行政法人鹿児島障害者職業センターの平松氏を講師としてお迎えし、就職活動の流れや利用できる社会資源についての情報を提供していただきました。障害学生がそれぞれの強みを生かし、社会で自分らしく活躍できることを目指すためには在学中の支援だけでなく、卒業後の職場定着も見据えた支援を今後も継続して行っていく必要があると感じました。

感想（抜粋）

- ・自分が就職に抱えている不安を、より具体的に理解する必要があることに気付きました。自己分析を進めて、不安を少しずつ解消していきたいです。
- ・鹿児島では想像よりも多様な支援制度が実施されていることを理解できました。また、自分の悩みを他者に打ち明ける機会によって、相談する自信を得られました。



開催報告

鹿児島大学修学支援室交流ワーク

3月17日(月)対人不安の改善、気づきを得ること、対人スキルの向上を目的に、仲間探しゲームやテーマトーク等のグループワークを実施しました。今回11名（スタッフ含む）が参加し、2時間程でしたが自分の新たな面に気づいたり、ゲームが楽しかったと感じた等概ね好評でした。今後も少しずつ工夫をしながら多くの学生に参加して頂けるよう定期的実施していきたいと考えています。

感想（抜粋）

- ・思った以上に理解度と伝える力のギャップが大きかったこと。ジェスチャーゲームでどんなことを伝えなければならぬかは理解できたが自分のジェスチャーは他の人にはうまく伝わらなかった。
- ・意外に冗談が好きなんだなということに気づいた。
- ・人と関わるのは大変楽しいが、気づかない間にストレスを感じているのか終わった後に感じたことのない疲れを感じる

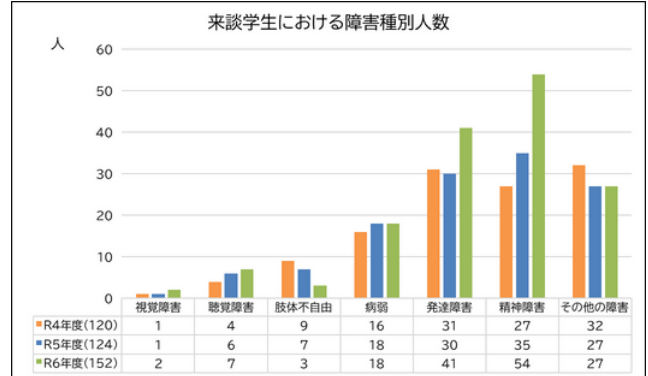
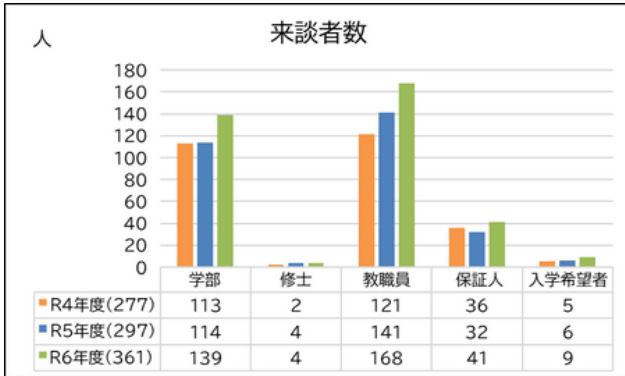


実績報告

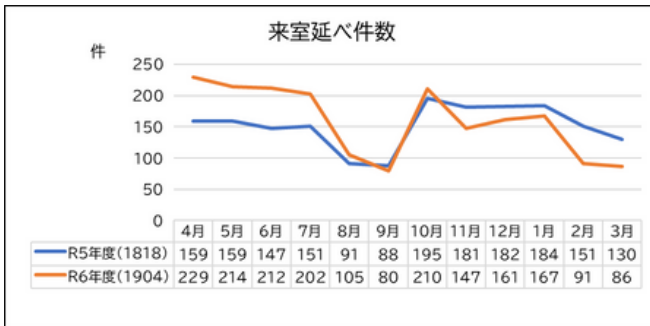
1. 来談者数（来室もしくは相談があり面談や支援につながった実数）

R6年度の来談者数は合計361名でした。学部生、教職員、保証人、入学希望者の来談が増えています。合計の来談者も年々増加しています。

R6年度の来談学生を障害種別（JASS0の区分に準じる）にみると、精神障害が最も多く次いで発達障害、その他の障害となっています。この3つのグループが全体の80%にあたります。



2. 来室件数（当センターに来られた件数）

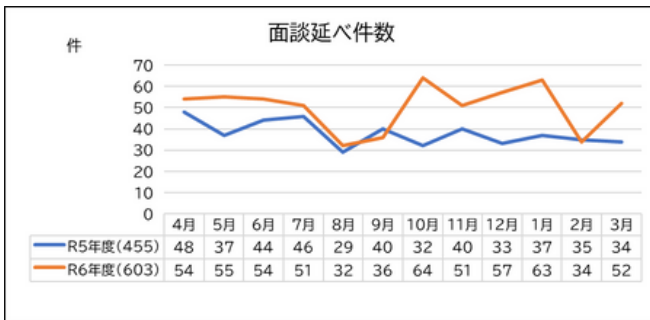


	人数
学部	66
修士	2
入学希望者	0
計	68

	人数
教職員	27
保証人	6
計	33

令和6年度の来室件数は、1904件で、学生が68名、教職員及び保証人が33名であった。令和5年度の1.05倍となっている。コロナ禍の制限ある学生生活から戻り、来室件数も増加していた。

3. 面談件数

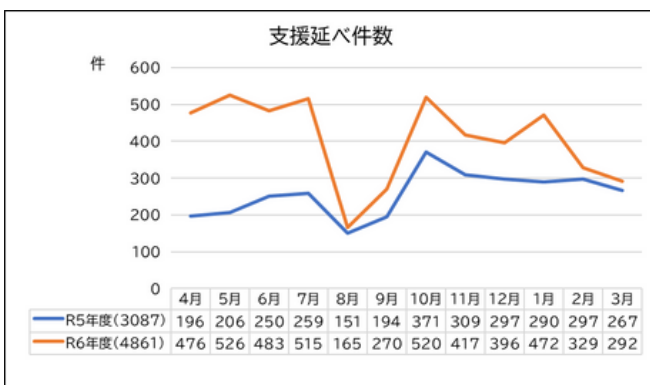


	人数
学部	105
修士	2
入学希望者	9
計	116

	人数
教職員	20
保証人	30
計	50

令和6年度の面談件数は、603件で、学生が116名、教職員及び保証人が50名であった。面談件数は令和5年度の1.33倍となっている。面談実数も令和5年度の学部生74人→105人、教職員6人→20人、保証人9人→30人と大幅に増加しており、学生本人だけではなく学生支援の連携のための面談も増えている。

4-1. 支援件数（修学及び生活に関する支援件数）



	人数
学部	131
修士	1
入学希望者	5
計	137

	人数
教職員	168
保証人	37
計	205

令和6年度は、学部・修士学生と入学希望学生の137人及び学生に関することで連携を図った教職員168人、保証人37人に対し4861件の支援を行った。学生の支援の詳細は次ページに記すが、修学に関する支援、学生生活に関する支援と非常に多岐にわたっている。

4-2. 令和6年度の支援内容詳細（件）

No.	修学に関する支援内容	計
1	点訳・墨訳	0
2	教材のテキストデータ化	0
3	教材の拡大	0
4	ガイドヘルプ	0
5	リーディングサービス	0
6	手話通訳(触手話を含む)	0
7	ノートテイク・パソコンテイク	350
8	ビデオ教材字幕付け・文字起こし	0
9	補聴援助システム	0
10	パソコンの持込・使用	3
11	読み上げソフト	0
12	音声認識ソフト	350
13	ノイズキャンセリングイヤホン等	0
14	講義の録、板書の撮影の許可	0
15	オンライン授業における情報保障等	2
16	グループワーク等の実施における配慮	0
17	実技・実習、フィールドワーク等の実施における配慮	27
18	授業内容の代替	0
19	オンライン授業による対面授業の代替	0
20	レポート作成等の学習指導	52
21	履修登録の支援	30
22	試験時間の延長	0
23	別室受験	9
24	解答方法の配慮	0
25	注意事項等の文書による伝達	56
26	出席に関する配慮	0
27	提出期限の延長	0
28	要望に応じた使用教室の配慮	2
29	要望に応じた座席の配慮	5
30	専用机・椅子・スペースの確保	0
31	チューター等の活用	193
32	その他の授業支援(No.33～47独自の授業支援)	1641
33	支援機器の使用説明・貸し出し	37
34	休学に関する確認・連絡等	4
35	成績に関する確認・連絡等	17
36	時間割に関する確認・連絡等	107
37	授業出席への声かけ・同行・見送り支援	69
38	オンライン授業支援・自習支援(学習室利用)	440
39	保証人との連携(メール・TEL)	59
40	担当教職員との連絡(メール・TEL)	189
41	近況確認連絡(メール・TEL)	177
42	メール相談(学生・教職員・保証人)	36
43	TEL相談(学生・教職員・保証人)	112
44	保健管理センターとの連携	3
45	支援申請書に係るモニタリングと調整等	126
46	面談調整	235
47	引継	30
小計		2720

No.	生活に関する支援内容	計
1	専有スペースの確保・利用(居場所の確保、仲間づくり)	1
2	通学支援(自動車通学許可、専用駐車場等)	0
3	個別支援情報の収集(出身校との連携等)	0
4	情報取得支援 (行事案内、休講情報等、教室・試験教室の確認、病院・リハビリ代行予約)	132
5	障害学生支援担当部署による定期的な面談、相談対応	0
6	自己管理指導(メール・ライン作成、服装声掛け、手紙き同行、提出物の確認、スケジュール管理等)	266
7	対人関係スキル指導・相談(対人スキル、トラブル対応等)	1
8	日常生活支援 (起床のTEL、声かけ、食事、洗濯、入浴、睡眠等)	526
9	専門家によるカウンセリング	0
10	医療機器、薬剤の保管等	0
11	休憩室、治療室の確保等	28
12	生活介助(体位変換、食事、トイレ等)	0
13	介助者の入構、入室許可	0
14	その他の授業以外の支援(No.15～30独自の生活支援)	1187
15	アルバイト学生との連絡	107
16	印刷・スキャン	149
17	卒後フォロー	347
18	保証人との連絡(メール・TEL)	20
19	担当教職員との連絡(メール・TEL)	35
20	近況確認連絡(メール・TEL)	199
21	メール相談(学生・教職員・保証人)	6
22	TEL相談(学生・教職員・保証人)	50
23	保健管理センターとの連携	12
24	引継	4
25	キャリア教育(障害理解、職業適性の把握等)	154
26	障害学生向け求人情報の提供	3
27	就職支援情報の提供、支援機関の紹介	12
28	インターシップ先の開拓	2
29	就職先の開拓、就職活動支援 (学習室個別ボックス使用)	51
30	医療機関との連携	1
31	地方自治体との連携	0
32	地域の相談・支援機関との連携	3
33	就労支援機関・企業等との連携	32
小計		2141

※緑色の項目はJASSOの調査項目にある支援。白色はJASSOの調査項目にないセンター独自の支援によるもの。

5. 支援申請書提出件数

支援申請書申請人数	
	人数
学部	57
修士	1
計	58

令和年度の支援申請書提出は、660件（申請人数58人）でした。令和5年度の提出は505件（申請人数44人）であり、件数、申請人数ともに増加しています。

*支援申請書は根拠があり合理的配慮の提供について必要であると判断された申請書です。記載されている合理的配慮内容は提案ですので、講義内容によって変更や調整が必要だと思えます。変更や調整のご相談もぜひご連絡ください。



活動報告

1. 支援会議・協議会

年度	R5年度 (件)												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入試事前協議会								3	7	10	4		24
入学事前協議会													0
修学支援会議	3		1			2					4		10

年度	R6年度 (件)												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入試事前協議会					1	2	5		5	17	6		36
入学事前協議会													0
修学支援会議	1	1	1			1			2	1	1	2	10

2. 令和6年度研修・講習会等の活動記録

年月日	研修・講習会
令和6年4月4日	令和6年度鹿児島大学新任教員SD研修会講師 「障がいをもつ学生の支援について」
令和6年5月25日～27日	日本学生相談学会第42回大会参加
令和6年5月22日、5月29日、6月5日	令和6年就活に不安のある学生のための就職準備講座開催
令和6年6月18日～20日	JASSO令和6年度全国キャリア教育・就職ガイダンスへの参加
令和6年7月1日～2日	JASSO令和6年度障害学生支援実務者育成研修会（基礎プログラム）への参加
令和6年7月17日	令和6年度水産学部FD講習会講師
令和6年8月8日	令和6年就活に不安のある学生のためのワークショップ-苦手なことへの対策を考え「私のトリセツ」を作成してみよう-開催
令和6年8月29日～30日	全国高等教育障害学生支援協議会(AHEAD JAPAN)第5回大会参加
令和6年10月22日	鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム 2024 鹿児島大学の障害学生支援と就労移行に関する情報交換会
令和6年11月19日	鹿児島大学Diversityセミナー 多様な学生への配慮・支援について～障害学生支援センター（修学支援室）の10年の歩み～
令和6年11月15日 令和6年11月23日～24日	第62回全国学生相談研修会への参加
令和6年12月13日	障害者支援に関する大学間関係情報交換会への参加
令和7年2月12日～14日	HEAP障害学生支援セミナー「障害学生支援専門職の観点から高等教育機関のあり方を問う」への参加
令和7年2月17日	令和6年度働くことに不安がある学生向けの講座の開催
令和7年2月18日	家カレじぶん発想ワーク by トヨタへの参加
令和7年2月28日	障害のある学生のためのキャリアガイダンス～6社による働き方説明会～への参加
令和7年3月17日	鹿児島大学修学支援室交流ワークの開催
令和7年3月21日	令和6年度第1回障害学生支援連携協議会開催

募集

学生アルバイトの募集～Diversityある大学を共に創ろう～

障害学生の立場にたち支援を実施できる学生アルバイトを募集しています

活動内容：障害のある学生の修学サポート

①PCテイク・要約筆記・ノートテイク

(聴覚に障害のある学生さんと一緒に講義に入り、音声変換器を見ながら誤変換をパソコンで修正したり、周りの状況を支援学生にお伝えして頂くお仕事です)

活動時間：1回120分

②その他(学習支援・学内のバリアフリー調査等)

活動場所：大学構内等



<https://forms.office.com/r/i89Ej5fgYE>



※アルバイト時間はご自身の講義が入っていない時間に限ります。

※支援希望の学生とのマッチングになりますので、必ずアルバイトができるとは限りませんのでご了承ください。

興味のある方は是非、修学支援室(障害学生支援センター)をお訪ねください。

支援機器

機器の説明やお試しもできますので、お気軽にお問い合わせください

No.	支援機器	メーカー・機種・その他
1	点字対応テブラ	キングジム SD6700D
2	ICレコーダー	Panasonic RR-XS455-K
3	車いす	マツナガ 42幅 自走タイプ
4	ロジャーペン	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
5	ロジャータッチスクリーンマイク	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
6	ロジャーフォーカス	聴力に関係なく、大きな講義室の中で先生の声だけをよりクリアにきくことが可能
7	ストレッチマット・ボール	屋内外兼用
8	電子メモパッド	KING JIM boogie board BB-9
9	折りたたみベッド	F907-g1001-100
10	ウェブカメラ	C-615
11	書画カメラ	エプソン ELPDC21
12	ロジャー 線音源スピーカー	デジタルマスター7000
13	ロジャー パスアラウンドマイク	Rogerタッチスクリーンマイクとの接続が可能なマイク。人の声の集音に優れている。(2台)
14	PCテイク用パソコン	Lenovo ThinkPad(2台)
15	iPad	Apple(2台)
16	スキャナー	富士通 ScanSnap SV600(1台) 新聞や雑誌の見開きなどの大きなサイズの前稿、とじられた本を切ったりせずに、最大A3サイズまで読み取れる。大切な原稿も紙面に触れずに読み取れるので、原稿を傷めない。
17	体圧分散クッション	EXGEL ミニブニ
18	ヤマハ ユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン	1~4名程度の打合せに最適。バッテリー搭載でミーティングコーナー・自宅・外出先などあらゆる場所で利用可能。
19	ヤマハ ユニファイドコミュニケーションマイクスピーカー YVC-330	4~6名程度の小規模遠隔会議に最適な会議用スピーカーホン。騒がしいオープンスペース・静かな会議室それぞれの利用に適した2つのモードを搭載。
20	ワイヤレス充電デスクライト	タッチセンサー、5段階調色、5段階調光、タイマー機能、メモリー機能、ワイヤレス充電(株)オカムラ(テトラ1基)
21	1人用ワークブース	最小1㎡のスペースに手軽に導入できる、吸音パネルに天板を組み合わせたセミクローズの1人用ワークブース。
22	フルクローズ型ワークブース	(株)オカムラ(テレキューブ2基) 床・壁・天井すべての面が囲われた個室空間。遮音、吸音、照明、換気各機能が整っている。
23	ロジャーテーブルマイク	卓上用でグループワークに対応し、離れた場所からの音声も聞き取れる。
24	トランポリン	HONEI トランポリン 耐荷重150kg
25	SONY(ソニー) カメラ用マイク	ワイヤレスマイクロホン ECM-AW4
26	ADESSO(アデッソ) 目覚まし時計	目覚まし時計に振動(バイブ)機能が加わった振動アラームクロック
27	THANKO 強制目覚ましマット	踏み続けないと鳴り止まない目覚ましマット
28	光線療法ライト体内時計	内蔵時計を搭載し、設定した時間になると優しく明るくなる(または暗くなる)

編集後記

令和6年度末で修学支援室（障害学生支援センター）は設置11年目が経過しました。今年5月に様々な方々の思いの詰まった「鹿児島大学障害学生支援センター10周年記念誌」が完成しました。編集に携わって下さったすべての皆様に感謝申し上げます。記念誌は障害学生支援を考える上でのたくさんのヒントになる内容が書かれていますので、ぜひ手に取ってご覧いただければと思います。

昨年度も、様々なワークショップや講座、情報交換会、Diversityセミナー、交流ワーク等障害学生の支援の活動が開催されました。少しずつでもこれらの活動が学生のためになり、直接的、間接的な形で学生の力になると良いなと思っています。学生の事、障害の事、制度の事、機器の事などまだまだ分からないことも多いですが色々な場面での理解が進むように、啓発にも取り組んでいけたらと思います。